

平成 20 年度研究報告書

研究代表者

島根難病研究所小児難病部門

所属 どれみクリニック小児科

氏名 羽根田紀幸

1. 研究テーマ

「モンゴル国へ渡航しての小児心疾患に対するカテーテル治療の実践・技術指導と疫学共同研究 - Heart Saving Project in Mongolia」

2. 研究者氏名

羽根田紀幸¹、富田英²、堀口泰典³、岸田憲二⁴、野木俊二⁵、田村真通⁶、檜垣高史⁷、小西央郎⁸、小澤晃⁹、片岡功一¹⁰、上田秀明¹¹、松岡孝²、太田雅明¹²、澤田まどか²、西岡貴弘²、曾根田明子¹³、増川昭子¹⁴、根岸聡文¹⁵、青木のぞみ¹⁶、象谷ひとみ¹⁶、福富阿沙子¹⁶、宇佐美博幸¹⁷、丸野聡子¹⁷、伊藤康弘¹⁷、大束亮¹⁸、アルタントーヤ¹⁷、アルタンツェツェグ¹⁷、エンヘサイハン¹⁹、ボーヤ²⁰、バーサンジャブ²¹、ビャンバスレン²²、ナンツァツラル²²、ボロルマ²²、ウンドラ²²、オリギリ²⁰、ガンバートル¹⁷、アンガラグ²³

-
- ¹ どれみクリニック小児科
 - ² 昭和大学横浜市北部病院
 - ³ KKR 立川病院小児科
 - ⁴ 医仁会武田総合病院
 - ⁵ 茅ヶ崎徳洲会総合病院小児科
 - ⁶ 秋田大学医学部附属病院小児科
 - ⁷ 愛媛大学医学部附属病院小児科
 - ⁸ 広島大学医学部附属病院
 - ⁹ 東北公済病院
 - ¹⁰ 高知医療センター小児科
 - ¹¹ 神奈川県立こども医療センター循環器科
 - ¹² 愛媛大学医学部附属病院
 - ¹³ 神奈川県立こども医療センター
 - ¹⁴ 札幌徳洲会病院
 - ¹⁵ GE 横河メディカルシステム(株)心臓超音波販売部
 - ¹⁶ 島根大学医学部 6 年生
 - ¹⁷ 宇佐美写真事務所
 - ¹⁸ 駐日モンゴル大使館
 - ¹⁹ 米国テキサス州ベイラー大学小児科
 - ²⁰ モンゴルの病気の子どものための基金
 - ²¹ モンゴル国立医学研究所
 - ²² モンゴル国立母子保健センター小児循環器科
 - ²³ モンゴル国ウランバートル市アンガラグ旅行社

3. 研究概要

(目的と方法)

2008 年は第 9 次の渡航診療であったが、始めて 7 月に 2 名で 2 泊 3 日の下見の渡航を行った後、8 月にチームを編成して渡航致した。チームは全員で 20 名を超える大人数であったが、全員がいっしょに渡航するのではなく、8 月 6 日に先発隊が出発、途中で中継ぎ隊が 2~3 日現地で重なりながら引き継ぎ、さらに最終隊に引き継ぎ、最終隊は 8 月 20 日に帰国致した。8 月の全日程は 15 日間だったが、時間に余裕のある医学生以外は各自 5~10 日間の参加と致した。7 月の渡航で宣伝と通訳の充実を図ったので、今まででもっとも充実した活動ができたように思われる。現地の方々からは、モンゴル保健大臣からの感謝状をはじめとして、多くの感謝の言葉をいただいた。

8 月 6 日に現地入りした先発隊は、まずウランバートルから 400km 離れたアルバイヘルで 2 日間検診を行った。ここで 63 名に対して診察と心電図心エコー検査を施行致した。ついでウランバートルから 50km のゾーンモドに移動して 21 名の検診を行った。その後、中継ぎ隊が合流した 8 月 11 日から最終隊が帰国する前日の 8 月 19 日までは、ウランバートルの 2 つの国立病院での診療を行った。2 つの病院を受診した患者数はおよそ 170 名であった。その中から我々が治療できる患者の選別を行い、結果的にはカテーテル件数は総数 45 例で、内訳は、治療カテ達成 31 例（動脈管開存の経カテーテル閉鎖 25 例、肺動脈弁バルン形成 4 例、大動脈縮窄へのステント留置 1 例、動脈管依存型の肺動脈閉鎖を含む複合疾患の動脈管へのバルン拡張 1 例）、カテーテル治療を試みた後診断だけにとどめたのが 2 例、最初から診断目的のカテーテルが 14 例であった。大動脈縮窄症例は危急の状態のため 7 月にも緊急避難的にバルンを行ったので、これをカウントすると今年のカテーテル総数は 46 件、カテーテル治療達成は 31 例 32 回あった。

今回の活動を過去 8 回に加えると、ウランバートルでの診療総数は、心エコーによる精査およそ 800 例、カテーテル件数 208 回 210 例、カテーテル治療達成 156 例 157 回（動脈管開存経カテーテル閉鎖 134 例、肺動脈弁狭窄バルン形成 16 例、大動脈縮窄経カテーテル治療 3 例 4 回、チアノーゼ型複合疾患における経カテーテル血管形成 1 例、大動脈縮窄と動脈管開存をいっしょに経カテーテル治療 1 例、心臓内異物をカテーテルで回収 1 例）、診断カテーテル（治療カテを試みて撤退した例を含む）53 例となった。また、地方都市検診はバガノール（ウランバートルから東へ 110km）、ナライハ（ウランバートルから東へ 40km）、スフバートル（ウランバートルから北へ 300km、ロシアとの国境）、エルデネットとボルガン（ウランバートルから西北西へ 330km）、ムルン（ウランバートルから西北西へ 700km、途中オフロードが 300km）、アルバイヘル（ウランバートルから南西へ 400km）とゾーンモド（ウランバートルから南西へ 40km）を回ったことになり、総数で 450 名以上を検診したことになる。

4. 学会機関誌もしくは学会への関連論文(演題)発表状況

論文発表等

- 1) 羽根田紀幸. 動脈管開存(PDA)に対するコイル塞栓術の合併症、特にコイル脱落とその対処法. JPIC NEWS LETTER 17: 4-8, 2008
- 2) Tomita T, Uemura S, Haneda N, Soga T, Matsuoka T, Nishioka T, Yazaki S, Hatakeyama K, Takamuro M & Horita N. Coil Occlusion of PDA in Patients Younger Than 1 Years: Risk Factors for Adverse Events. Journal of Cardiology 119: 2008
- 3) 羽根田紀幸. モンゴル渡航小児循環器診療(ハートセービングプロジェクト、HSP)第9次の渡航を終えて. 島根保険医協会報リレー放談 No. 128, 島根保険医協会報 409 (平成21年2月5日号): 15-17, 2009

学会発表

- 1) 堀口泰典、羽根田紀幸、檜垣高史、片岡功一、田村真通、富田英、野木俊二、岸田憲二、山本英一、上田秀明. モンゴル国の乳児栄養事情 フブスグル県ムルン市でのアンケート調査より. 第111回日本小児科学会. H20. 4. 25. 東京
- 2) 堀口泰典、羽根田紀幸、檜垣高史、片岡功一、田村真通、富田英、野木俊二、岸田憲二、山本英一、上田秀明. フブスグル県ムルン市での心臓検診 モンゴル渡航小児循環器診療の一環として. 第111回日本小児科学会. H20. 4. 26. 東京
- 3) Buyan-Ochir Orgil, Kenji Kuroe, Hideshi Tomita, Shunji Nogi, Hideaki Ueda, Takashi Higaki, Yasunori Horiuchi, Hiroshi Yano, Byambasuren Sanjaasuren, Damdinsuren Damdinsuren, Enkhsaikhan Purevjav, Baasanjav Nachin & Noriyuki Haneda. Heart Saving Project: Catheter Intervention and Screening of Heart Diseases in Mongolian Children. Pediatric Academic Societies and Asian Society for Pediatric Research 2008 Joint Meeting. May 3-4. 2008. Honolulu, Hawaii, USA
- 4) 富田英、羽根田紀幸、曾我恭司、松岡孝、西岡貴弘、矢崎諭、畠山欣也、高室基樹、堀田智仙、山邊陽子、上村茂. 1歳未満の動脈管開存に対するコイル閉鎖術. 第44回日本小児循環器学会. H20. 7. 2. 福島県郡山市
- 5) 堀口泰典、富田英、羽根田紀幸、野木俊二、檜垣高史、田村真通、上田秀明、片岡功一、山本英一、高田秀実、矢野宏. 未治療心疾患の発育に及ぼす影響(第2報) -モンゴル国4県の心臓検診データより-. 第44回日本小児循環器学会. H20. 7. 3. 福島県郡山市
- 6) 堀口泰典、富田英、羽根田紀幸、野木俊二、檜垣高史、田村真通、上田秀明、片岡功一、山本英一、高田秀実、矢野宏. 動脈管開存が左室心筋に与える影響第2報. 第44回日本小児循環器学会. H20. 7. 3. 福島県郡山市

- 7) 富田英、羽根田紀幸、矢崎諭、堀田智仙、高室基樹、畠山欣也、野木俊二、黒江兼司、上田秀明、檜垣高史. 18歳以上の動脈管開存に対するコイル閉鎖術. 第20回日本Pediatric Interventional Cardiology研究会. H21. 1. 17. 東京
- 8) Tomita H, Haneda N, Uemura S, Yamabe Y, Hatakeyama K, Takamuro M, Horita N, Yazaki S, Soga T, Matsuoka T, Nishioka T and Sawada M. Transcatheter Occlusion of PDA in Adolescent and Adult. 第73回日本循環器学会トピック5 先天性心疾患・心臓弁膜症に対するカテーテルインターベンション治療の進歩. H21. 3. 21. 大阪市

